

新型コロナウイルス感染症による富士登山への影響に係る対応（案）

1 背景

- ・富士山は、新型コロナの影響により、令和2年度は開山しなかった。
- ・令和3年度は、新しい登山マナーの周知、検温・体調チェック、山小屋での感染防止策への助成などの対策を講じた上で開山したが登山者数は過去最低となり、この2年間で地元観光事業者や山小屋へ多大な経済的な負の影響が及ぼされた。
- ・新型コロナは、拡大と収束を繰り返しており、完全な終息には見通せない状況にある。

2 これまでの来訪者管理についての議論・方針

- ・来訪者管理戦略では、富士山の顕著な普遍的価値を表す「神聖さ」及び「美しさ」を実感できるよう、「望ましい富士登山の在り方」として「17世紀以来の登拝に起源する登山の文化的伝統の継承」、「登山道及び山頂付近の良好な展望景観の維持」、「登山の安全性・快適性の確保」の3つを定めている。
- ・平成27年から3年間の収容力調査の結果、「登山の安全性・快適性」が損なわれるような著しい混雑は、恒常的に発生しているわけではなく、特定の日時・場所（お盆・週末のご来光前後の吉田口・富士宮口の山頂付近）において発生していることが分かった（詳細は、別添、2018年11月提出保全状況報告書の附属資料抜粋を参照）。
- ・こうした特定の日時・場所における著しい混雑の発生を抑制するため、吉田口で登山者数が4,000人を超える日が3日以下、富士宮口で同2,000人が2日以下という指標・水準を設け、混雑予想カレンダーや混雑回避を促す動画等での周知により、登山者の平準化を図ることで、望ましい富士登山の実現に努めている。
- ・なお、五合目については、静岡県側では著しい混雑はなく、吉田口では混雑の平準化に向け富士山登山鉄道構想などの議論が行われている。

3 ウィズコロナ時代の富士登山

- ・今後の富士登山に係る政策を検討するにあたっては、新型コロナによる閉山や登山者数の減少による影響を踏まえることが重要である。
- ・富士山の顕著な普遍的価値をできるだけ多くの人々に理解してもらうためには、新型コロナと共存しつつ、安全安心に訪れてもらうことが必要である。

4 対応

- ・今後の富士登山に係る政策を検討する際の基礎資料とするため、閉山や登山者数の減少が富士登山に与えた影響について「新型コロナウイルス感染症による富士登山への影響調査報告書」として取りまとめる（報告書の骨子案は資料3-2のとおり。当該骨子案及び調査費用の予算措置について令和4年3月に富士山世界文化遺産協議会に諮ったうえで、令和4年度に実施）。
- ・コロナ禍が継続している現状においては、引き続き新型コロナ対策を徹底したうえで、来訪者管理戦略に則り多くの人々に望ましい富士登山を体験してもらうことにより、登山をしない観光客を含めた来訪者を対象とした顕著な普遍的価値の理解促進、富士山の保存と活用に努める。

5 スケジュール

R 3	R 4			
1 ~ 3	4 ~ 6	7 ~ 9	10 ~ 12	1 ~ 3
調査骨子・予算 ○ 学術委員会 ○ 作業部会 ○ 協議会	← 影響調査 → ○ 学術小委員会 (1 ~ 2回)		調査結果報告 ○ 学術委員会 ○ 作業部会	○ 協議会
	← コロナ対策 (準備・実施) →			